

令和4年度 特色ある学校づくり推進事業報告書
『地域との連携 Project MASANORI を通して』

あま市立正則小学校

1 目的

本校は、校区に学校名の由来となった「福島正則公」の菩提寺である菊泉院があり、日頃から地域と深いつながりをもっています。保護者には卒業生も多く、地域の方に温かく見守られ、協力していただきながら学校教育を進めており、地域の力は本校になくしてはならないものになっています。そこで、地域との連携を図り、地域の力を生かすことで、児童の自己肯定感を高め、児童をより健やかに育てていきたいと考えてきました。

また、変化の激しい現代社会をしなやかに生き抜く力を児童に身に付けさせることは、今日の教育の重要な課題であると考えます。状況に合わせた目標をもち、前向きに考え行動するには、豊かな心の醸成が必要であると考えています。

2 内容

(1) 地域との連携

ア Project MASANORI

「福島正則公」を知り、母校や地域を誇りに思う気持ちをもってこの学校を卒業してもらいたいと始めたこの活動も6年目となり、児童の中に「福島正則公」が浸透してきました。本年度は、5年生が「福島正則公」の終焉の地である小布施町立栗ガ丘小学校とZoomによる交流学习を計画しました。交流学习では、正則小で行っている学習の紹介と我々の郷土である濃尾平野の地形を生かした生活様式について紹介をしました。また、栗ガ丘小学校からは、山地のくらしや特産物、地域に伝わる祭りなどを紹介していただきました。3年生は、正則公の生誕に関する建造物（菊泉院、石碑）などを見学した後、堀川文化を支える会の方を講師としてお招きし、「福島正則が語る－堀川と名古屋のものづくり－」の紙芝居を通して学びを深めました。6年生の『ふく王くんまんじゅう作り』では、講師に芳春軒店主を迎え、ふく王くんの顔のおまんじゅうを作りました。できたおまんじゅうは、授業公開時に、家族に感謝の気持ちを込めてプレゼントしました。また、1年生では『ふく王くんぬり絵』や『ふく王笑い』を行いました。ぬり絵は、校長室前や来賓玄関に掲示し、来校者を温かく迎えています。



【5年 交流学习】



【3年 堀川紙芝居】



【1年 ふく王笑い】

イ 農業体験学習

継続事業として毎年、学校近くの畑でサツマイモの植え付けと収穫を地域の農業委員さんのご指導で体験させていただいています。昨年度から、1～4年生での実施に変更しました。土に触れる経験が少なくなった今日、サツマイモの苗植えや収穫は、とてもよい体験になっています。収穫したサツマイモを絵手紙で描き、農業委員さんに感謝の気持ちを届けました。さらに3年生は、サツマイモ以外に郷土の農作物とし

て有名な越津ネギの植え付けと収穫を、農家の方を講師に招いて体験させていただきました。

ウ 安全マップ作り

毎年、5月に引き取り訓練を行い、下校時には、親子で通学路を歩いて危険箇所のチェックをしています。通学団会では、記入したマップを持ち寄り、危険箇所を確認し、児童へ注意を促しています。それらをまとめ、校区の安全マップを作成、配布することで、安全な登下校について意識の向上を図っています。

(2) 豊かな心の醸成と健康づくり

ア 合唱指導

歌声の響く学校は、児童の心を豊かにすると考え、朝や帰りの会で歌を歌うことや朝礼の後全校合唱の練習をするなど、歌う機会を確保してきました。コロナ禍になってからは思うように実施できないときもありましたが、今年度は、講師の合唱指導により発声に自信をもち、多くの児童が合唱のすばらしさを感じ取り、12月には「合唱発表会」を行うことができました。また、2・3月には「卒業式」に向けた合唱指導を行いました。

イ なわとび教室

昨年度に引き続き、「体幹を鍛え持久力を高める」ことや「根気よく取り組む心を育てる」ことを目標として、「なわとび教室」を行いました。講師に技のこつを教えんでもらい練習に励む姿やダブルダッチに楽しそうにチャレンジする姿が見られ、縄跳び週間へのモチベーションを高めることにつながりました。

(3) 指導力向上

ア 外国語の現職教育

令和4年度から「相手意識をもってコミュニケーションを図ろうとする児童の育成ー「伝えたい」気持ちを育む言語活動を通してー」と題して、外国語の授業研究を推進しています。1年目の今年度は、講師に岐阜聖徳学園大学の加藤拓由先生を招き、校内現職教育を行いました。研究授業の後、付箋紙を用いたワークショップ型の研修を行うことで、活発に意見交換ができ、教員の主体的な交流や若手教師の研修の機会となっています。

イ 辞書引き学習

今年度も中部大学の深谷先生を講師に迎え、2年生の児童を対象に「国語辞典による辞書引き学習」について、4～6年生の児童を対象に「漢字辞典による辞書引き学習」について授業をしていただきました。学習活動が制限される中、児童の言葉への意識や語彙力を高める有益な取組となっています。

3 評価と課題

コロナ禍が続く状況下において例年通りの「Project MASANORI」を実施することは難しいと考え、「Project MASANORI」の内容や、各学年の「生活科」や「総合的な学習」のカリキュラムを見直し、コロナ禍でも実施できる学校全体での取組や持続可能な取組を検討してきました。その中で今年度は、5年生の交流学習を実現することができました。地域に存在し、地域に支えられている本校にとって、逆に地域に何かできないか、そんな思いに駆られて、取り組んできた Project MASANORI ですが、年数を重ねることで「福島正則公に親しむ」だけでなく、継続して受け継ぐ活動になりつつあります。今後は、「カリキュラムの中でどのように位置づけ、時間を確保するのか」「継続実施できる内容にしていけるか」が課題であると考えています。